

多 度 津 町 経 済 動 向 調 査

《第 3 四半期 (2018年10-12月) 調査結果》

1. 調査期間 2018年12月3日～19日

2. 調査対象 会員 4 2 企業に調査票配布 (回収29企業 回収率69%)

	製造	建設	卸売	小売	サービス
調査対象	12	9	4	8	9
有効回答	8	6	3	7	5

3. 調査項目 今期 (2018. 10～12月) を基準に前年同期比、来期予測を今期比にて業況・売上高・採算・仕入単価・従業員・資金繰りの項目について調査。

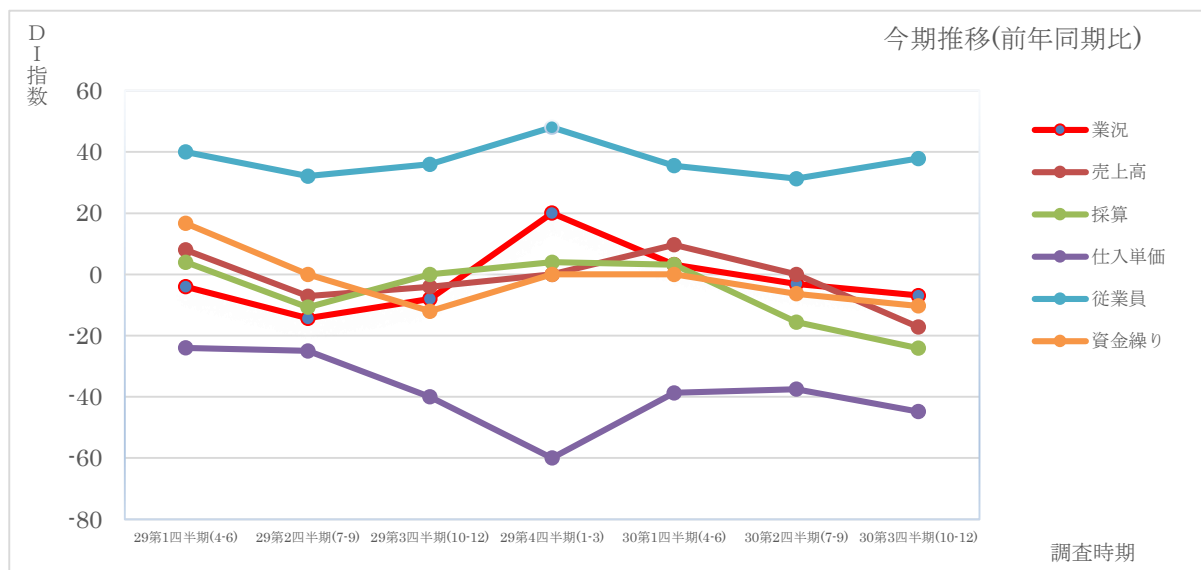
※DI指数は、景況判断状況を表すもので増加・好転などの回答割合から減少、悪化などの回答割合を差し引きし、ゼロを基準としてプラス値で景気の上向き、マイナス値で景気の下向きを表す。

4. 全産業 (DI指数分析)

業況は3期連続の悪化、先行き(来期)は改善を見込む。

業況DI▲6.9(前期比3.8ポイント悪化↓)、売上高DI▲17.2(前期比17.2ポイント悪化↓)、採算DI▲24.1(前期比13.5ポイント悪化↓)、仕入単価DI▲44.8(前期比7.3ポイント悪化↓)、従業員DI37.9(前期比6.1ポイント人手不足感増加↑)、資金繰りDI▲10.3(前期比4.1ポイント悪化↓)。

先行きの見通し(来期予測)の業況DI0(今期比6.9ポイント改善↑)。売上高DI▲10.3(今期比6.9ポイント改善↑)、採算DI▲13.8(今期比10.3ポイント改善↑)、仕入単価DI▲31.0(今期比13.8ポイント改善↑)、従業員DI37.9(今期比+0ポイント横ばい→)、資金繰りDI▲10.3(今期比+0ポイント横ばい→)となった。



5. 業種別 (DI指数分析:前期比)

製造業は、業況5.0ポイント改善↑。売上高15.0ポイント、資金繰り22.5ポイントの悪化。採算+0横ばい。仕入単価7.5ポイント、従業員25.0ポイント改善。

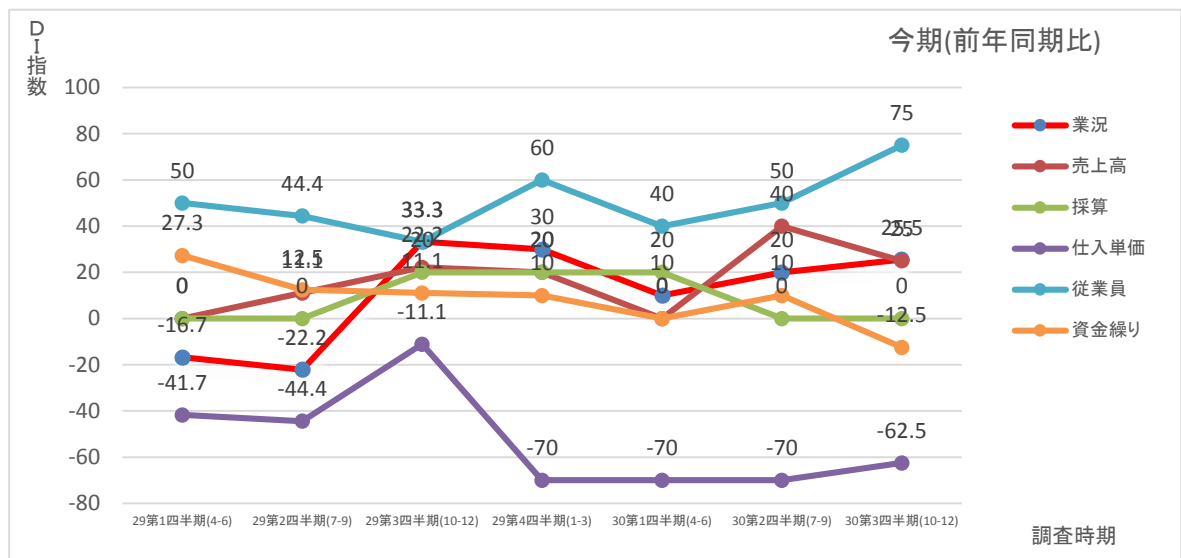
建設業は、業況11.9ポイント改善↑。売上高7.1ポイント、採算21.4ポイント、仕入単価35.7ポイント、従業員28.6ポイント悪化。資金繰り11.9ポイント改善。

卸売業は、業況+0ポイント横ばい→。売上高33.3ポイント悪化。採算、仕入単価は+0ポイント横ばい。従業員33.3ポイント、資金繰り33.3ポイント改善。

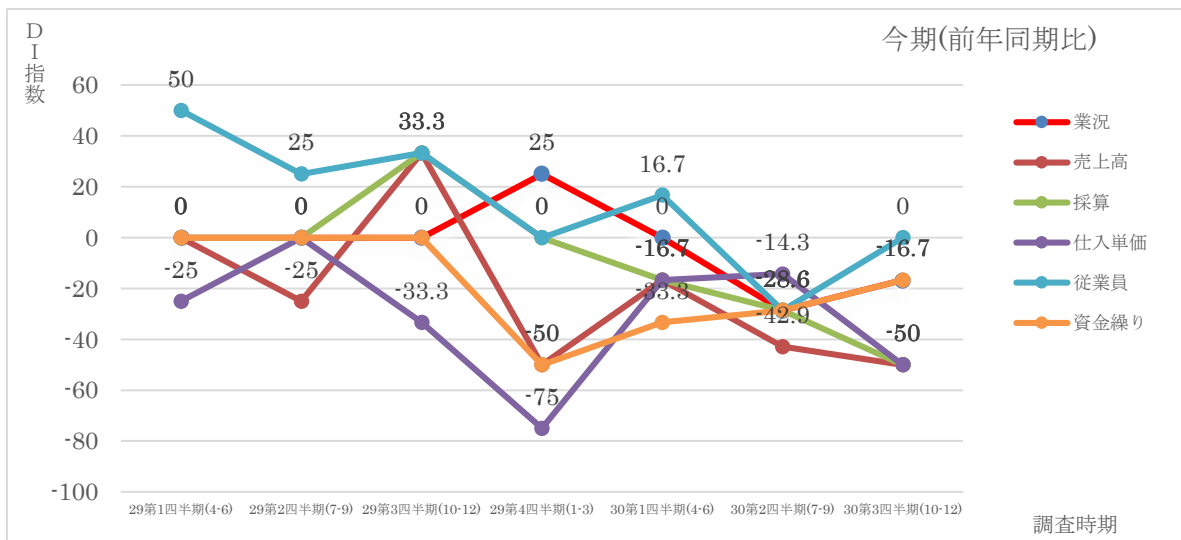
小売業は、業況4.7ポイント改善↑。売上高35.7ポイント、採算35.7ポイント、資金繰り33.3ポイント改善。仕入単価26.2ポイント、従業員2.4ポイント悪化。

サービス業は、業況33.3ポイント悪化↓。売上73.3ポイント、採算56.6ポイント、資金繰り53.3ポイント悪化。仕入単価13.3ポイント、従業員26.7ポイント改善。

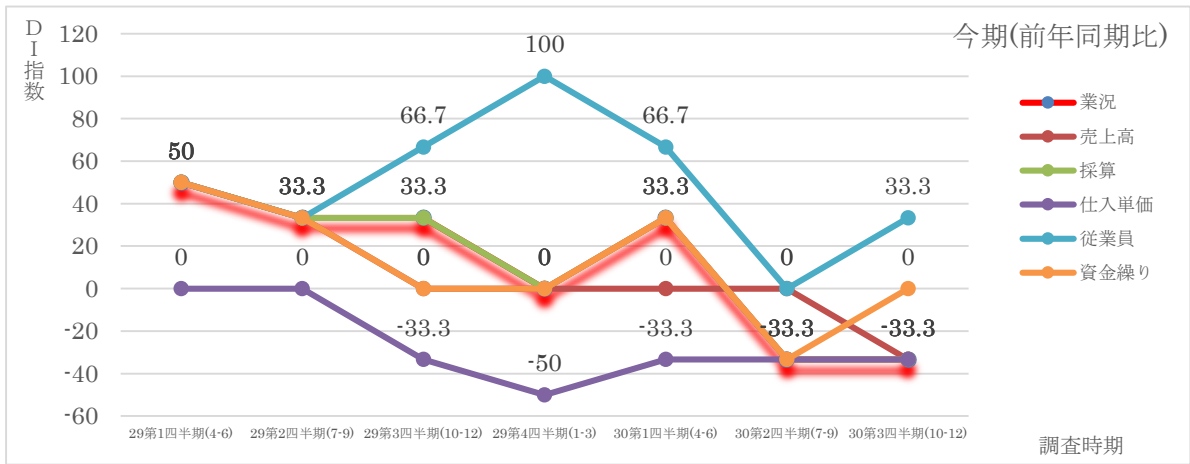
製造業



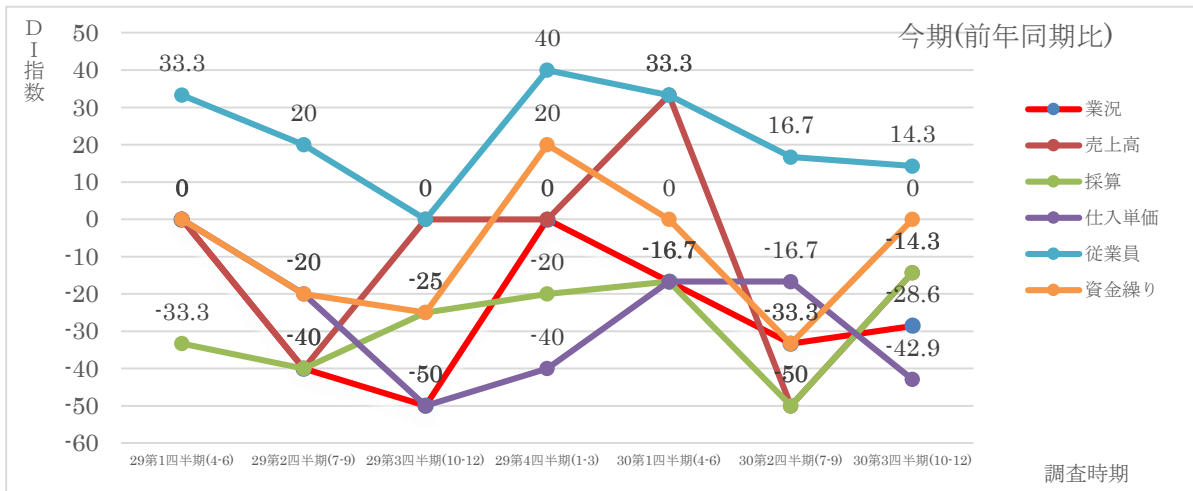
建設業



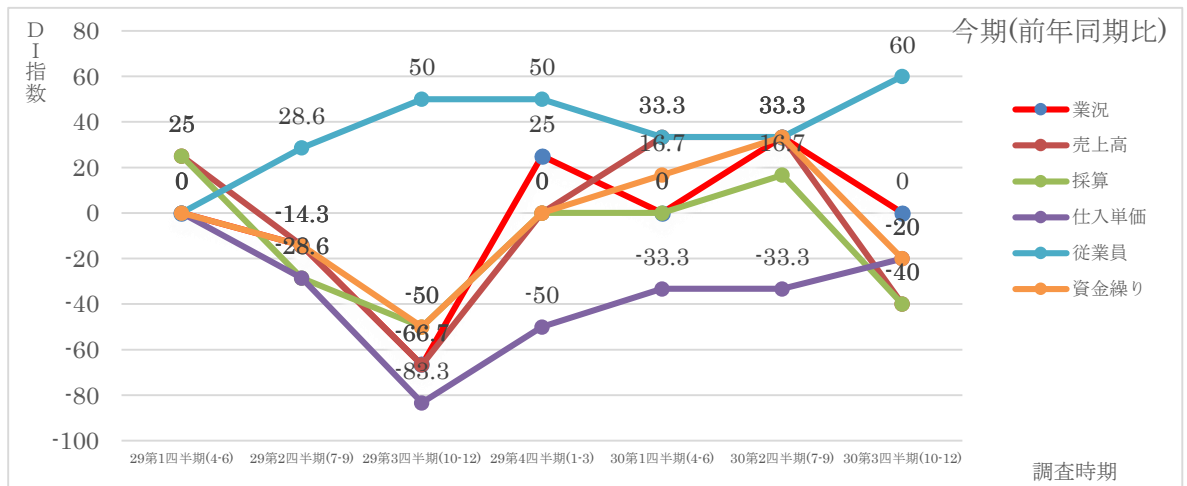
卸売業



小売業



サービス業



【業況感等コメント】

●大阪北部地震や相次ぐ台風の上陸により被害が拡大し、特需が生じていることから一気に人手不足の状況に陥った。しかし、基本的景気基盤は個人消費の回復が弱い。 (製造業)

●資材、運賃の値上がり分が価格転嫁できてない状況のため、利益が得られにくい。今後更にコストアップが見込まれ値上げによる収益アップを目指すしか方策がない状況である。 (製造業)

●設備の老朽化、作業環境の改善、生産の効率化などの改善を図る目的と製品の大型化への対応のため第三工場を増築中である。 (製造業)

●人手不足による時給単価上昇、材料費が値上がりしている。 (サービス業)

●資材、人手ともに不足がちである。鉄骨のボルトの供給が不足している。 (建設業)